

広い校庭、狭い裏庭、どこでも野菜作りは可能です。

カロリーオフセットではケニアで学校菜園の開設を支援しています。St. Patrick Gatua小学校はケニア中央部に位置するムランガカウンティと隣接のキアンブカウンティの境界にあり、アバーディア山系のある国立公園も近いことから、緑が多く起伏に富んだ地域です。このあたりは斜面でお茶を栽培する小規模農家が多く、温和な気候と雨量に恵まれ、また首都ナイロビも近いのでキャベツなど葉物野菜の栽培も盛んです。

2019年にTFTのサポートで学校菜園を始めたSt. Patrick Gatua小学校ですが、広い校庭をいかして菜園に地場野菜の菜っ葉類、キャベツ、サツマイモやアロールート（和名：葛ウコン）などいろいろな野菜を植えています。収穫した野菜は、隣接する寄宿学校に販売し、その資金で種を買ったり、貧困家庭の子供の学用品や学費の支払いに利用しています。また、アロールートでケニアのパンケーキであるチャパティやポテトチップスを作るなど付加価値をつけることにも挑戦しています。

337

の農園ができました

(2020年10月時点)

菜園クラブの活動風景



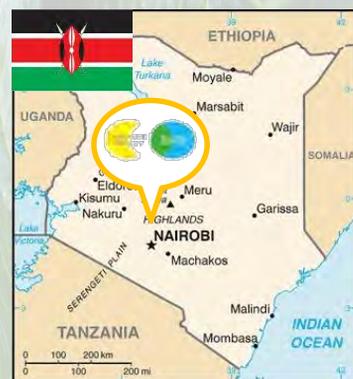
学校のある地域は雨量や気候に恵まれているので、葉物野菜がよく育ちます。スクマと呼ばれるケールやキャベツは、ケニア人の食卓に欠かせない野菜です。

コロナ禍でも学びを忘れない



農作物を入れる袋（サック）や古タイヤをプランターの代わりに利用するサックガーデンを活用することで、農地のない都市部の貧困地域や農家の裏庭でも、簡単に栄養価の高い野菜を栽培できるようになります。

ケニアでも、新型コロナウイルス感染症の影響で休校措置が講じられましたが、St. Patrick Gatua小学校では菜園運営を指導する先生が子ども達にサックガーデンについて学ぶ機会を提供しています。



アフリカ東部に位置するケニアは、国土が日本の1.5倍の約58.3万Km²、東はインド洋、北は砂漠、中央部の高地、南はサバンナと地形は変化に富んでいます。

人口は4,756万人で、観光や農業が経済の中心で、人口の約8割が農業に従事して生計を立てています。